

114
A 4415

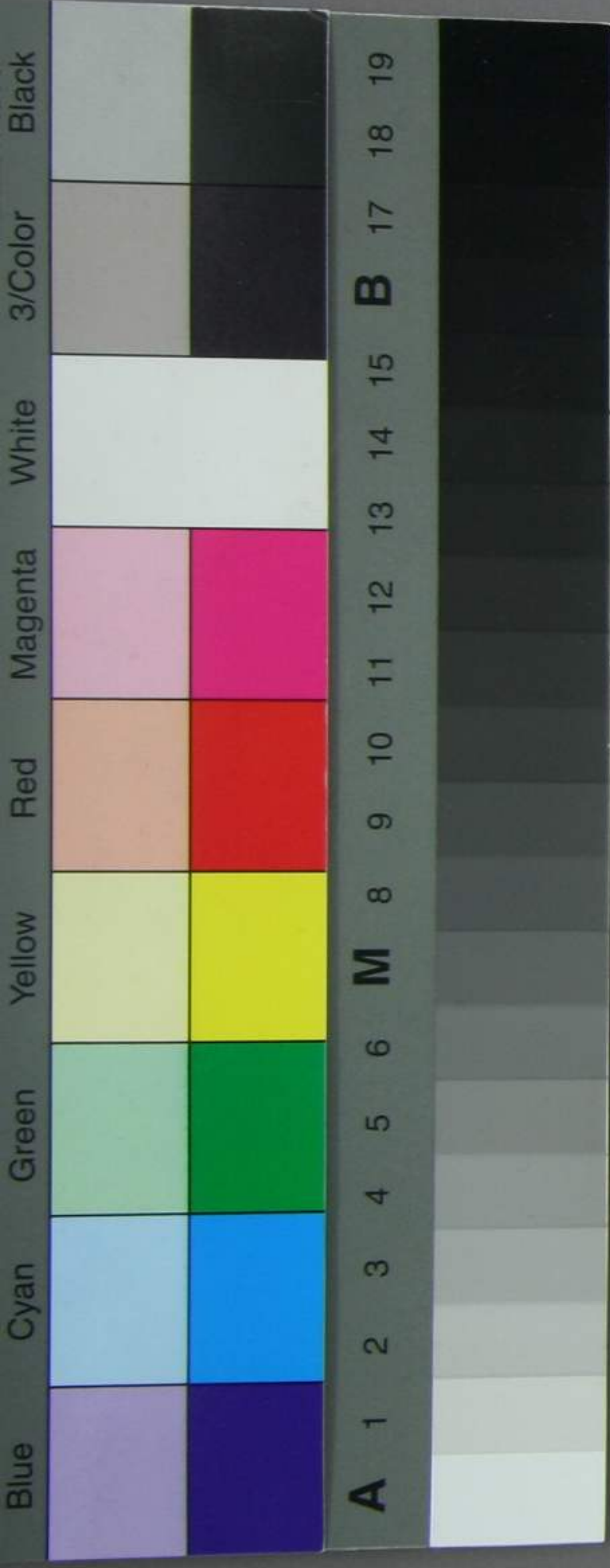


バンヘルトト譯八月廿七日發行

○英國及び英國政界ノ讒謗者

流石ガハ積モル年ニハ克チカタリ殆ント老衰
 困頓ニ沉マントスル所ノ英獅ハ今ヤ其運命ニ
 正ニ全ク傾クアラントス彼ノカブル名国ニ逃ケ
 タル脛間ニ尾ヲ垂レテボエル名国ノ請求ニ降リ
 タル二三ノ者ニ對シテハ只一ノ悲ハ可キ現象
 ラ呈シタルハ吾人ノ惘哀ニ耐ヘサル所ナリ夫
 ノ老獸ハ其名譽ヲ以テ和平ヲ買ハシテ切望
 セリ(若シ幸ニ之アルヲ得ハ)而シテ良シヤ之ヲ
 ルヲ得ストモ孰レノ道其和平ヲ望メリト如斯
 ハ一二米利堅ノ新聞記者ガ吾人ニ告クル所ノ
 事ナリ

天正十一年四月



然レモ若シ夫レ彼レ記者ヲシテ信ニ只愛憐ノ
情アルニ出ツルニ外ナラシメハ何故一夫
ノ老獸ヲシテ之ヲ天運ノ然ラシムル死ニ任シ
以テ平穩ニ幸福ニ死去セシメサル乎何故ニ彼
レ老獸ガ為メニハ最モ不親切ナルレバニア
ル今ノ愛種族ノ米國ノ從兄弟ハ却テ其老獸ノ
苦痛ヲ増サンガ為メ然リ其心ヲ悩マシムル乎
今夫レ彼レ老獸ガ死去セサル可ラサルハ是レ
自然ノ道ナル可キニ何故ニ彼ヲシテ其臨終ヲ速
カシメ其船舶ハ水雷火ヲ以テ之ヲ破リ其建物
ハ地雷火ヲ以テ之ヲ碎キ其要害ヲシテ彼ガ為メ
斯ノ如ク其甚シク蒙ラシム可キ乎此疑問ニ對
シテヤ各人ハ愛爾蘭ノ語ヲ以テスルニ只信ニ

知ラサルト答フルノ外ナキノミ
而ルニ憶病者ノ一族ハ其手段ヲ強暴殺伐ノ兵
器ニ藉ルニ一方ニ於テハ亦敢テ太ク敬愛ス可キ
ニモ非ナル他ノ一族ハ英國ノ名譽ヲ傷ケシガ為メニ
其譏謗ヲ逞クシタリキ夫ノ或ル時ハ横濱ニ在
リ爾后ハポストン、新約、倫敦等ニ居レル浮薄ナ
ル直接譏謗者ノ一群ハ其自己心術ノ惡金ヨリ
シテ實造ノ貨幣ヲ鑄ルニ從事シ之レニハ亦
夕糶々ノ修飾ヲ加ヘ又ハ狡猾ナル工夫ヲ運ラ
シ而シテ其揚言スル所ダケハ之ヲ真個ノ正物
ニ摸シ以テ其流融ヲ為サシメテ企テタリ
夫ノハウス蓋シ吾人カ知ル所ノ他ノ社會中
ニハ其己ノ活潑ナル銀笠ヨリシテ其最

悪性ナル貨幣ヲ発行セシ所ノ人ノ如キハ最
モ日本ノ信友ト稱シ其謬滂ヲ前面ニ載キ其
最モ遠慮會釋モナク其自稿ヲ副ユルガ如キ
一時々之アリキ吾人ハ同一ノ説ヲ見出セリ
然レドモ是ハ之レ他ノ記名ヲ以テ現レタリ
シ此時ヤ乃チ最モ彼レガ捺印アルコト非ズ而
シテ日本ノ風習ニテハ捺印アルニ非ザルハ
其無効ノ者タル可キニ係ラズ其作ト云フノ
記名ノ見ヘタルヲモアリ或ル時ハ亦タ吾人
ハウスハ英國ニ行キタルヲ見タリ已レシテ
幾クモナリ西亞同盟ノ一説ハ「ポール、マー
ル、ガゼット」ノ紙上ニ現ハレタリキ斯リテ亦
タ此同盟ノ巨魁ヨリシテ夫ノ英國及ビ英國ノ

政略ニ向ヒ宿怨ノ紐ヲ以テ聯結シタル共連累
ノ二三者ト通信ヲ為スカ為メ九月ヲ經過
シタル可キ歟然ル後亦タ夫ノ吾人ハ徹頭徹尾
之ヲ反覆熟讀スル後竟ニ其奇ト呼ビ快ト稱ス
可キ者ヲ看出スルヲ能ハザリシニ係ラズ「ニュー
ヨーク子」シヨシノ紙上ニ於テ「エス、エム」ノ
名ヲ以テ日本ニ於ル英國ノ壓制ト稱シ疾ク之
ヲ攻撃シタル者ヲ看出シタリキ吾人之ヲ一ノ
賢者ト聞リ天道ハ其正ヲ救フトヤラ宜ベナリ
彼レ記者ハハウス自己歟又ハ其手先キ中大ノ
パルクスガ自ラ帝國ノ冤枉ト稱シテ之ヲ演
シタルガ如ク只タ日本ニ於ル英國ノ壓制ヲ想
像シテ戦々兢兢ト杞憂ヲ抱クガ如キ二三者ナラ

大正
文
宮

シトハ疑ハレタルナリ今大ノ「インテルナシヨ
ナル。レウイ」中正ニハウスガ毎々口吻トセル
所ト同ナル主点ヲ登載シタル其作ノ想像説
就キ左ニ注意ヲ喚起セン
吾人ハ之ヲ讀一讀シ去ルニ及ビ其書中ノ結末
ニ至リテハウスガ馨氣ノ其中ニ含有スル者ア
ルヲ看出シタリ譬へバ突然大ノ日本ノ放心ハ
年ノ在留者ト記名シタル書翰ニ倒シテ記者ハ
則チ曰ク實ニ亦タ彼レ在留者ハ当時英國公使
ハ其耐忍ナル基督教ノ精神ヲ抱キ以テ夫ノ近
未泰西人民ト交際ヲ閑キシ以来其力ノ及ブ所
文明ノ地位ニ進マンテヲ勉メタル猛勇ニシテ且
ツ温厚ナル日本人ノ事業ヲ助ケンガ為メノ寛

仁大度ナル行為ヲ現ハシタリシヲ見タルナラ
ン尚ホ且ツ加フルニ英國公使ガ夫ノ横瀆ニ於
ル英國ノ新聞記者ガ日本政府ニ向ヒ攻撃及ビ
罵辱ノ批評ヲ下シタルニ就キ直チニ之ヲ嚴罰
シタル一ヲ記憶セズンバアル可ラザルナリ然
レドモ亦タ吾人ハ知ル彼レ八年ノ在留者ハ八
年中ニ於テ三回日本ニ止マルヲアリタラニ
ハ夫ノ同時ニ日本人ニ禍害ヲ與ヘ其國ニ恥辱
ヲ蒙ラシメンガ為メニハ傳_得タリ賢シト其機ニ
乗ガルヲ誤ラザル英國新聞ノ器械ニ依リテ其
後ヲ擁セラレ而シテ已ニ英國政略ノ性質ト爲
サレタル不公不正ナル一壓虐横暴ナルトニ就
キテハ同シク共ニ其舉動ニ眩冥セラレタルナ

女
宮

ラント

吾人ハ均シク共ニ是レ其私怨ト無實ノ冤トヲ以テ表サレタル是等譏毀ノ評論ヲ讀一讀スルニ方リテヤ恰モ是レ其一タビ已ニ死シタル東京「タイムズ」ハ再ビ蘇生シタル歟ト怪レタリキ夫ノハウスガハリーパークスタ攻撃セル昔日得意ノ口吻ハ再ビ我カ記想ヲ喚起セリテ數年間同記者ノ為メ其汚濁ナル硯水ニ浮ベル筆奴ヲシテ其惡意ヲ逞クスルノ具ニ供セラレタル英國新聞記者ノ器械ナル者ハ、エス、エム其人ニ取リテモ均シク是レ禁物トハ思ハレタルナリ實ニ亦タハウスハ該論文ノ起草者ナル可シト云ハル、モ其實ナキニ非ザル可シ良シ

ヤ亦タ其起草者マテニハ非ズト為スモ必ズヤ彼レニ依リ教唆セラレタル者ナラント為スモ其故ナキニ非ザル可シ何トナレバハツス其人ヲ外ニシテハ決シテ他ニ其肩ヲ並ブル者アル一ナケレバナリ
「子」レヨシニ宛テタル寄書ニ副ヘル所ノ「エス、エム」ナル起草者ハ日本ニ在リテハ東京「タイムズ」持主ノ荷担者ニ列シ願フニ亦タ其財主ノ一人ニシテ而カモ詠無精神ノ新聞ガ其人ニ向ヒ無益ノカヲ副ヘタル所ノ連累ノ人々ト同一ナルナリハウスハ其人ノ為メ與ツテカアルカ故ニ其人亦タ自ラ東京「タイムズ」ノ旧持主ニ向ヒ其カヲ假サントスル者アルハ只タ其謝禮ト

交誼トニ對スルノ情ヨリ出ヅルニ外ナラザル
可キノミ吾人ハ夫ノイ、エス、エム及ビイ、エツ、エ
ツチヲ以テ其甲曹ヲ善ケテ併進ス可キ好一副
對トハ羅列スルナリ